

日本鐵鋼協會記事

理事會 (昭和 15 年度第 3 回)

日時 昭和 15 年 5 月 1 日(水)午後 5 時 30 分開會午後 7 時 30 分閉會

出席者 理事 渡邊三郎 吉川 晴十 井村 竹市 田中 清治 鹽澤 正一

前會長 依 國一 河村 曉 服部 漸 水谷 叔彦

監事 堤 正義 松下 長久

常務委員 池田 正二 石原 善雄 志村 繁隆

主事 金谷 三松

協議事項

1. 昭和 15 年度抄録員委嘱の件

決定 氏名次記の通り

- 一色 貞文君 今村 幸喜君 茨木 正雄君 池上 卓徳君
- 林 三樹男君 林 美好君 本城 武君 桶谷 繁雄君
- 川崎 正久君 川勝 一郎君 垣内富士雄君 海江田弘也君
- 谷口 三郎君 高瀬 孝夫君 武田 喜三君 根守 侃君
- 名黒 和孝君 南波 伸尙君 八木貞之助君 山本 信公君
- 前田 元三君 前田 六郎君 藤井啓一郎君 小林佐三郎君
- 豊島 清三君 秋元 信一君 芥川 武君 雀部 高雄君
- 岸本 浩君 三橋鐵太郎君 森棟 隆弘君 森永 卓次君
- 森脇 和男君

2. 支部と連絡を密接ならしむる爲め自今支部に於て支部會開催毎に努めて本部より理事交番出張の件

決定

3. 研究部會小委員會開催のときは其の日時、場所を理事、前會長に通知すること。

決定

4. 工學會より依頼の「工學と工業 年報、工學と工業の展望」中本會擔當に關する記事起草の件

決定 會長擔當

5. 過る昭和 14 年 11 月本會々長、大日本窯業協會々長連署を以て商工大臣宛建議の「耐火煉瓦並型寸法統一に關する件」に關する本會側審議委員の推薦方を耐火物特別委員會委員長黒田氏より委嘱の件

決定 次の通り三名推薦

日本製鐵會社技師藤村哲之君 日本鋼管會社技師 郷 義二郎君 日本特殊鋼會社技師神谷基夫君

5 月 16 日審議會開催審議の結果全員前提建議書通り一致せり。

6. 入退會者及會員異動 次の通り承認

(1) 會員異動總計表(昭和 15 年自 3 月 1 日至 4 月 30 日)

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者數	—	1	—	33	59	93
退會者數	—	—	—	3	5	8
轉格者數	—	—	—	+ 4	- 4	—
現在會員數	14	50	22	2107	1603	3796
前報期對増減	14	+ 1	22	+ 34	+ 50	+ 85

備考 維持會員加盟者 日産自動車株式會社 1 名

退會承認

正會員 川口 良夫 藤村 謙
准會員 櫻井 周助 大友 義雄 喜多 芳茂

報告事項

1. 昭和 15 年 3 月分收支報告
2. 學術振興會より次記印刷物の寄贈あり之は會員中希望者へ分譲し學術振興會の目的遂行に盡力することを旨とす。
學振 19 小委 第 1 號 鐵及鋼窒素分析方法 200 部
" 第 2 號 鋼材鍛鍊作業ノ稱呼及鍛造比表示方式 500 部
" 第 3 號 鐵及鋼酸素分析方法 235 部
" 第 4 號 鐵及鋼水素分析方法 300 部
" 第 5 號 非金屬介在物ニ依ル鋼品位判定方法 600 部
3. 電氣製鋼研究會各小委員會開會報告(別項とす)
4. 野田文庫購入圖書 (別項)
以上

編輯委員會 (昭和 15 年度第 2 回)

日時 昭和 15 年 4 月 24 日(水)午後 5 時開會午後 7 時 30 分閉會

出席者 渡邊會長 吉川理事 河村前會長

池田 正二 石原 善雄 田中 清治 依 信次 齋藤 彌平 三島 徳七 志村 繁隆 鹽澤 正一

協議事項

1. 鐵と鋼第 26 年第 6 號論文原稿決定

決定原稿

- (1) 特殊鋼型打品の肉眼組織に就て 錦織 清治
 - (2) ロール孔形が壓延能率に及ぼす影響並に其の時間的研究 園田 一夫
 - (3) 構造用鋼に添加せらるゝ特殊元素の效果に就て 玉置 正一
- 論說と抄録の間に「全譯」の欄を設け次の原稿入れること。本欄は臨時的のものとす。

「全譯」クルップ會社ボールベック工場に於けるクルップ式レン法に據る酸性貧鐵鑄の處理に就て(Stahl und Eisen, 1939) 鈴木泰治郎譯

2. 鐵と鋼第 26 年第 5 號上掲抄録原稿決定

3. 昭和 15 年度委嘱抄録員推薦 (前掲) 理事會決定の通り

4. 鐵鋼要覽編纂進行に關する件

講演會 (昭和 15 年度第 3 回)

日時 昭和 15 年 5 月 13 日(月) 午後 6 時 20 分開會

會場 帝國鐵道協會三階大集會場

講演者及標題

1. 鐵鋼需給統制に就て 商工省鐵鋼局調整課事務官 保科 治朗君
2. 耐火煉瓦としての北支産高礬土質粘土に就て 大阪窯業耐火煉瓦株式會社技師長 工學士 青木 熊雄君

第1講演に對しては本會が特に「改正 鐵鋼需給統制規則解説」なる印刷物を作製し出席者へ配布せり。

第一講演は渡邊會長第二講演は吉川理事司會され最も盛況を呈せり來聽者總計 167 名午後 8 時 40 分閉會す。

日本鐵鋼協會第 20 回研究部會

部門 燃料經濟部會(第三回)

主題 熔鐵爐熱勘定研究會

日時 昭和 15 年 4 月 1 日(月)午前 9 時開會

會場 東京丸の内 帝國鐵道協會々館三館大集會室

次 第

- 1. 開會の挨拶 日本鐵鋼協會々長 齋藤 大吉君
- 2. 各工場提出資料總括に就て説明 委員長 海野 三朗君
- 3. 各工場推薦委員提出資料に就て説明
- 4. 討議
- 5. 決議

本研究繼續の事

出席者 工場推薦委員(工場符號 ABC 順)

佐伯 正夫君	釜石製鐵	菊池 正君	中山製鋼
草野 米一君	本 溪 湖	中島 小市君	兼 二 浦
毛利 三雄君	日本鐵鋼	藤原 唯義君	日本鋼管
伊澤 惣作君	日本鋼管	郷 義二郎君	日本鋼管
入 一二君	日本鋼管	藤井哲一郎君	小倉製鋼
藤田守太郎君	昭和製鋼	菊池 敏治君	昭和製鋼
信澤 寅男君	昭和製鋼	淺井 清造君	鶴見製鐵
小松 茂記君	鶴見製鐵	小山田純一君	鶴見製鐵
松浦 道徹君	八幡製鐵	松倉由次郎君	八幡製鐵
小菅 高君	八幡製鐵	白石 芳雄君	八幡製鐵
八木貞之助君	八幡製鐵	島村 哲夫君	八幡製鐵
内野 久雄君	齋重工業		

本會推薦委員

井上 克巳君	九州帝大	田所 芳秋君	日本製鐵研究所
田中 國雄君	鶴見製鐵	鷯瀨 達二君	東北帝大
松本與三郎君	日鐵兼二浦製鐵	的場 幸雄君	東北帝大
福井 眞君	昭和製鋼	荒川 直三君	日本製鐵
里村 伸二君	日鐵輪西製鐵	澤村 宏君	京都帝大

本會役員

會 長	齋藤 大吉君		
理 事	渡邊 三郎君	吉川 晴十君	
前會長	河村 曉君	水谷 叔彦君	
常務委員	田中 清治君	山田良之助君	
"	三島 徳七君	鹽澤 正一君	
編輯委員	石原 善雄君	網谷 俊平君	

傍 聽 者

甲藤 新君	小林佐三郎君	宮崎 節郎君	田邊 友和君
兒玉 藤八君	村田 清君	宇津 一郎君	中村孝一郎君
矢島 忠和君	横田 信夫君	今永仙太郎君	

午後 4 時 30 分閉會

日本鐵鋼協會昭和 14 年度第一回臨時總會に於ける會長の挨拶並に定款改正案の説明及決議(前報の追加)

昭和 15 年 1 月 26 日(金)午後 6 時 07 分於帝國鐵道協會々館三階大集會室開會

會長 只今講演會を開催致します事前に臨時總會を開きました處御

多用中にも不拘御參加を得まして感謝の至りで御座います。

本日の臨時總會の議題は豫め御通知致しました通り、本會の定款の中の改正の件であります。定款第 14 條の評議員の數「60 名」とあるのを「評議員 100 名以内」に改めることであります。御承知の通り大正 4 年に本會を創立致しまして以來本邦の鐵鋼業は時代に應じて種々變遷がありました。從て本會に於きましても亦時代に應じて種々消長を免れなかつたのであります。創立當初に於きましては本會の會員は 700 名内外に過ぎなかつたのであります。第一の歐洲大戰に際しまして鐵鋼業界の躍進と共に會員數は増加致しまして時 1,600 名を超えたことがあります。併し歐洲大戰後に鐵鋼界の打續く不況と大正 12 年の大震災の影響に依りまして大正 9 年度から昭和 7 年の末に至る迄概して 1,300 名から 1,400 名の間に昇降致して居りましたのであります。滿洲事變を契機と致しまして我が國の製鋼業は漸次躍進の一途を辿りて從て本會の會員數も漸次増加致しまして昭和 11 年度末に於ては 1,990 名凡そ 2,000 名になつたのであります。併し未だ此時はまあ 2,000 名弱でありましたが昭和 12 年以後は支那事變の勃發と共に鐵鋼業は軍事工業として將又一般工業に對する基礎産業として重要性を發揮するに至りました。既設工場の擴張並に新設工場建設の勃興が相次ぎまして益々鐵鋼業の興隆を見るに至りました。從て本會の會員數も 12 年度末に 2,188 名、13 年度末に於て 2,399 名、14 年度末は一躍して 3,500 名を突破するに至りました。尙ほ昨年毎月 50 名、1 ヶ年にして 600 名内外の増加を見るの趨勢になりました。此の情勢が進みますと云ふと本會會員數は 5,000 名を突破するに至ることも遠き將來ではないと豫想されるのであります。一方會の財政状態に於きましては創立當初は僅に 10,000 圓足らずの貧弱なるものでありましたが、其後鐵鋼業に特別の關心を有せられる所の個人並に財團等の非常なる御好意に依りまして 12 年震災當時に一時打撃を受けましたが、其の時代を除くと云ふと概ね資金も増加の一途を辿りまして殊に昨年度に於きましては日本鋼管及日本特殊鋼兩會社の多大なる御好意に依りまして著しく資産の増加を來しまして 14 年度末はまだ決算が出来ませんが 65 萬圓以上に達すると云ふ成績を示して居るのであります。斯る情勢に順應致しまして我が鐵鋼業界の仕事も色々多端に互りまして著々と計畫を樹て居るのであります。本會の役員の陣營を整備強化して益々本會の發展と使命の達成に努むることが最も必要で且機宜に適した處置と考へるのであります。之には色々案も今考へられて居りますが先づ第一著手として茲に本案を提出して評議員を現在の 60 名と云ふのを 100 名以内と云ふことに改正したいと考へるのであります。何卒御審議の上で御賛成あらんことを希望致します。

尙ほ此の總會は准會員を除きまして正會員の 1/10 出席を以て成立するのであります。今日に於て正會員、詰り名譽會員、維持會員、贊助會員以外で正會員と稱する者の總數が 2,047 名ありまして准會員を入れると 3,507 名になるのであります。正會員だけが 2,047 名で 205 名の出席があれば總會は成立する譯であります。今日其の委任狀の受取數が 903 名。出席者の數が先刻調べた所では 18 名合計 921 名でありまして定款に定める所の數の 4 倍以上に達して居ります。是で總會は成立する譯であります。只今述べました趣意に依りまして評議員の増員を計り度いと思ふのであります。誰か御意見がありますれば御述べを願ひたいと思ひます。別に御異議は御座いますか？〔異議なしと呼ぶ者あり〕

議長 それでは別に御異議はありませぬものと認めまして定款改正の件は茲に成立したものと認めます。是で總會を終ります(拍手)

鐵鋼協會臨時總會（昭和 15 年度第一回）

日時 昭和 15 年 5 月 13 日（月）午後 6 時 18 分開會
會場 東京市麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會館三階大
集會室

役員出席者 理事 渡邊 會長 吉川 晴十 石田 四郎
井村 竹市 田中 清治 鹽澤 正一
前會長 河村 駿 服部 漸
評議員 池田 正二 井上匡四郎 戸村 理順
德永 晋作 桂 弁三 高椋 正雄
黒田 泰造 三島 徳七
常務委員（池田正二）（三島徳七）（評議員）
主事 金谷 三松

出席者 21 名
委任者 734 名
計 755 名

開會の主題 去る 4 月 3 日本會第 25 回通常總會に於て決議の
本會定款改正に依り増員となりたる理事 2 名の選舉（無記 2 名連
記投票）

選舉長 日本鐵鋼協會長 渡邊 三郎君
選舉委員 三島 徳七君 鹽澤 正一君

定款施行細則に依り評議會推薦理事候補者

石田四郎君 山田良之助君（兩氏共得票數 729 票を以て當選
す）

鐵鋼協會臨時總會議事速記録

昭和 15 年 5 月 13 日（月曜日）午後 6 時 18 分開會

○會長（渡邊三郎君）それでは只今より臨時總會を開會致します、
今日の出席並に代理委任狀は 755 名でございます、是は准會員以外
の會員の 2,226 名の 1 割以上でございますので、今日の總會は當然
成立と認めます、刷物で差上げましたやうに今日の議題は先般改正
致しました定款に依て増員理事 2 名の選舉を御願ひ致す次第でござ
います、まだ御投票をなさらぬ方は御投票を願ひます、ございませ
ぬか……さうすると開票の御立會を三島さんと鹽澤さんに御願ひす
ることを御諮り致します（拍手起る）御賛成と認めます、さうする
と多少時間が掛りますから、是から御講演を願ひまして、其の間に
時間の都合を見まして御報告を致しますことに致します。

午後 6 時 20 分休憩

午後 6 時 21 分再開

○會長（渡邊三郎君）甚だ何でございますが、先程御選舉を願ひまし
た理事増員の投票結果が分りましたですから委員より御報告申し上げ
ます。

○委員（三島徳七君）御報告を致します、投票數 729 票、石田四郎
君、山田良之助君、御兩人共 729 票で當選を致しました（拍手起
る）

○會長（渡邊三郎君）それでは以上御兩名を御願ひ致すことに致し
ます、宜しく（拍手起る）

午後 6 時 23 分開會

日本鐵鋼協會第 23 回講演大會閉會の挨拶

齋藤大吉君 去る 4 月 3~4 兩日に互り講演者各位が多年鐵鋼及
合金に關する問題を種々の方面から検討された有益なる結果を比較
的短時間に然らば要領よく御報告下さいまして聴講者に多大の
感銘と利益とを與へられましたことに對し私は協會を代表して厚く

御禮を申し上げます。何分講演題目が 40 の多数に上り然かも成る可
く多くの時間を御與へする爲之を 2 部に分ちましたことは聴講者諸
君に御不便であつたこと、信じますが之れ又止むを得ざることであ
りましたので悪しからず御諒承を願ひます。

諸君甚だ不完全ではありますが 40 題目の講演を分類して見ます
と時節柄最多きは特種鋼（白點滲炭をも含む）に關するもの 8 題で、
之に亞ぐは鑽石の處理に關するもの 4 題、分析及磨耗等に關するも
の各 3 題、熔鑄爐、鑄物（鑄鐵及鋼）、鋼中の窒素、水素及電子廻折
法の應用等に關するもの各 2 題、平爐、トーマス鋼、樹狀品、異常
組織、非金屬性介在物、材料試験、發條の疲勞、高溫度に於ける鐵
の化學變態、反洋色、火花試験、熔鋼の副射率、鋼合金及アルミ
ウム合金等に關するもの各 1 題で其研究は洵に多方面に互り然かも
其多くは微に入り細を穿て問題の核心に觸れて居ることは誠に敬服
の至であります、唯茲で私の望蜀の慾を申述べること許さるゝな
らば上述の發表中研究室でなされた學術的な實際的研究は實に絢爛
目を奪ふばかりで私は益々其多きを望むものであるが製鉄及製鋼等
の實地作業に關する論文が僅に 2~3 に過ぎないことは甚だ物淋し
きを感じざる次第でありますから今後は熔鑄爐、製鋼爐は勿論歴延鍛
造等の實際作業に従事せらるゝ諸君が日頃御自慢のところを發表さ
れて國家總力戰的に本邦製鐵技術の進歩發達に資せられんことを祈
るものであります。

又協會として講演者諸君に御願致して置きますことは此度の御講
演の原稿を成るべく早く會の方へ御送り下さいまして大會で之を拜
聴し得ざりし大多数の會員諸君に一日も早く其恩恵を頒たるゝこと
であります。

終りに私は重ねて講演者各位の勞を深謝すると同時に協會の役員
諸氏が本大會の準備及遂行に多大の御盡力を賜つたこと及講演中司
會の勞を執られた各位に對し厚く御禮を申し上げます。

日本鐵鋼協會關西支部昭和 14 年度會務報告

創立總會	3 月 22 日	於中央電氣俱樂部
第 1 回例會	2 月 27 日	於京都帝國大學樂友會館
講演		「北支及中支の製鐵工業視察談」 澤村 宏君
見學		京都帝國大學工學部中央實驗所
第 2 回例會	7 月 8 日	於大阪帝國大學工學部
講演		「電子顯微鏡に就て」 菅田 榮治君
見學		大阪帝大工學部各科實驗室
第 3 回例會	10 月 21 日	於神戸製鋼所、川崎製鐵工場
講演		1, 線材の製造法に就て 宮下 俊二君
		2, 川崎重工業製鐵工場の概要 中島 道文君
見學		神戸製鋼所工場 川崎重工業製鐵工場
第 4 回例會	11 月 25 日	於中山製鋼所
講演		1, 挨拶 中山 悦治君
		2, 熔鑄爐建設經過 中島 三太君
見學		中山製鋼所熔鑄爐工場
座談會		「滿鮮支鐵工業に就て」
商議員會		
第 1 回	4 月 25 日	於住友俱樂部
第 2 回	5 月 27 日	於京都帝國大學樂友會館
第 3 回	7 月 8 日	於大阪工業俱樂部
第 4 回	10 月 21 日	於川崎製鐵工場事務所
第 5 回	12 月 21 日	於住友俱樂部

昭和 14 年度決算報告 (昭和 14 年 4 月~12 月)

收 入 ノ 部		支 出 ノ 部	
	円		円
本部 交付金	550.00	支部 創立 費	110.64
鐵鋼報國會寄附金	500.00	講演、見學會 費	5.00
會員 寄附金	369.00	講演者 謝禮	60.00
振替 利子	01	旅 費	0
		映 寫 會	0
		會 合 費	93.69
		印 刷 費	166.70
		通 信 費	110.56
		備 品 費	23.95
		事 務 費	3.48
		事 務 手 當	135.00
		講演見學補助員手當	34.00
		雜 費	2.00
		振 替 手 數 料	11.37
		小 計	756.39
		次 期 繰 越 金	662.62
合 計	1,419.01	合 計	1,419.01

昭和 14 年度収入 1,419.01
 " 支出 756.39
 次 期 繰 越 金 662.62

昭和 15 年度豫算 (昭和 15 年 1 月~12 月)

收 入 ノ 部		支 出 ノ 部	
	円		円
本部 交附金	700.00	講演見學會 費 (會場費其他)	350.00
鐵鋼報國會寄附金	500.00	講演者 謝禮	150.00
會員 寄附金	500.00	旅 費 (講演者其他)	200.00
前年度繰越會	662.62	映 寫 會	100.00
		會 合 費	200.00
		印 刷 費	350.00
		通 信 費	250.00
		備 品 費	100.00
		事 務 費	80.00
		事 務 手 當	240.00
		講演見學補助員手當	50.00
		雜 費	20.00
		振 替 手 數 料	20.00
		豫 備 金	252.62
合 計	2,362.62	合 計	2,362.62

熔鋼溫度測定講習會開催

主催 日本學術振興會 日本鐵鋼協會關西支部
 旨 趣

熔鋼の正確なる溫度測定試験は製鋼技術進歩上最も重要な條件であるが難事である故に日本學術振興會第 19 小委員會第 2 分科會に於て多年研究努力の結果を普く製鐵鋼各方面の實用化を目的とせる催である。

次 第

日 時 昭和 15 年 5 月 22 日 (水) 午前 8 時 30 分より
 會 場 大阪府工業獎勵館舊館 (大阪市西區江ノ子島町)

1) 講 義 午前 8 時 30 分自至正午

○ 挨 拶 日本鐵鋼協會關西支部長 荒木 宏君
 日本學術振興會第 19 小委員會委員長

東大名譽教授 工學博士 俵 國一君

○ 熔鋼溫度測定用光高溫計の使用法と補正法 (40 分)

商工省中央度量衡檢定所技師 理學士 天野 清君

○ 熔鋼溫度測定用各種熱電式高溫計に就て (40 分)

住友金屬工業製鋼所技師 理學士 菅野 猛君

○ 製作者の立場よりの高溫計 (40 分)

北辰電機製作所技師 理學士 森 武保君

2) 實 驗 (午後 1 時自至 4 時 30 分)

光高溫計の使用法及補正法

3) 陳 列 (午前 8 時 30 分自至 4 時)

各種高溫計及補正裝置, 型錄等展覽

申入注意事項

1. 會 費 無料
2. 申込期限 5 月 12 日 (同封端書に記入, 切手貼付のこと)
3. 定 員 講義 150 名 實験 100 名
 實験の申込者は聴講者に限る
 申込者多數の時は同一工場よりの参加者を減じ又は更に抽籤により決定す
 實験は 10 名を一班とし實験時間は一班に付き約 20 分とす
 出席許可を得たるものは當日必ず「許可證」を持參受付に示すこと
 申込超過の場合選外者には「許可證」を交付せず又通知もせざるべし
4. 晝食希望者には金 1 圓にて用意する。準備の都合上申込書に要不要明示のこと, 取消は不能, 會費は當日持參以上

野田文庫購入圖書 (昭和 15 年 1~4 月)

洋 書 之 部
 Periodical

G. A-Mineral Industry during.	1938
U. S. Bureau of Mines Minerals Yearbook.	1938
U. S. Bureau of Mines, Minerals Yearbook.	1938
American Foundrymen's Association, Alloy Cost Irons.	1939
Benns, Yearbook of the Coke Oven Managers Association.	1939
Third Report of the Steel Castings Research Committee.	
Directory Iron and Steel Plants	1940
Schallbroch, H. U. R. Wallich's, Werkzeugverschleiss, insbesondere an Drehmeisseln.	

邦 書 之 部
 書 籍

日本製鐵株式會社	製品型錄
齋 藤 大 吉 著	金屬材料及其加工法非鐵合金篇

日本鐵鋼協會第25回通常總會記事

目 次

I 總 會

日本鐵鋼協會々長理事

開 會 と 辭 工學博士 齋 藤 大 吉君

報 告 事 項

昭和 14 年度會務報告書

昭和 14 年度會計報告書

任期滿了役員（會長，理事，評議員）改選並に新增員評議員選舉
決議事項 日本鐵鋼協會定款並に定款施行細則改正案

II 表彰者推薦理由書

○第 10 回服部賞牌並賞金受領者

服部賞牌受領者

株式會社昭和製鋼所技師 工學士 福 井 眞君

服部賞金受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所製銑部長

工學士 伊 能 泰 治君

南滿洲鐵道株式會社鐵道技術研究所調査役參事

井 上 愛 仁君

株式會社日本製鋼所室蘭製作所

技 師 太 田 雞 一君

日本製鐵株式會社八幡製鐵所宿老 兒 玉 藤 八君

株式會社日本製鋼所室蘭製作所 高 橋 三 平君

株式會社神戸製鋼所副參事 原 行 三君

株式會社宮製鋼所製鋼部長 藤 田 清 一君

日本特殊鋼株式會社鐵造係長 技師 堀 半 造君

日本製鐵株式會社八幡製鐵所 技師 毛 利 英 熊君

○第 6 回依賞金受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所 技師

工學士 大 原 久 之君

秋田鐵山專門學校教授 工學博士 志 村 清 次 郎君

○第 2 回渡邊賞牌受領者

東京帝國大學教授 工學博士 吉 川 晴 十君

III 議 事 速 記

VI 晚餐會卓上演說速記

I 總 會

開 會 日 時 昭和 15 年 4 月 3 日（水祭）午前 11 時 20 分より

會 場 東京市本郷區本富士町一丁目東京帝國大學法文經第 2 號館文科第 28 號室

日本鐵鋼協會第 25 回通常總會開會の辭

日本鐵鋼協會々長理事 工學博士 齋 藤 大 吉

我等日本國民に取り最も記念すべき皇紀 2600 年の春に當り斯く多數の會員諸君の御參集を得まして本協會第 25 回總會を開き得ますことは私の甚だ欣快とするところであります。

先づ昨年の例に従ひまして其以後支那及滿洲に於て皇國の爲に貴き身命を擲られました幾多の英靈に對し深厚なる弔意と感謝とを表すると同時に出征將士の武運長久を祈るが爲諸君と共に 30 秒間の黙禱を捧げたいと存じます。御起立を願ひます。

黙禱 30 秒

次に私は會務報告を兼ねて内外製鐵業の狀勢について簡単に申述べたいと思ひます。

1. 會 務 報 告

1. 本協會の發展 -- 昭和 15 年 2 月末現在の會員總數は 3,711 人でありまして 14 年 2 月末現在に比し 696 人を増

加して居ります。之は其前の年度の増加數 616 人に比して 80 人を超過して居りますことは洵に喜びに堪へぬ次第であります。之れ一方本邦及滿洲國に於ける製鐵業の大々的發展を物語るものであると同時に會員各位の熱心なる御勸誘の賜物であると感謝致して居る次第であります。尙ほ今後ともこの方面に一層の御盡力を御願致して置きます。

2. 各種研究部會 -- 昨年の總會で御披露致しました日本鋼管寄贈資金利用の第一着手として研究部會の強化を行ひ七部門を設けて時局に適應せる諸問題について研究調査を進めることに致しました。今昨年度中の主要なる活動狀況を概括的に申し上げますと次の如くであります。

イ) 電氣製鋼研究會 -- 之は川崎舍博士を委員長に委嘱して御盡力を願て居るもので、電氣製鋼爐に關する構造、原料、操業及調査の 4 小委員會が設けられ 14 年 4 月 1 日から事業を開始し爾來構造關係に於て 9 回、原料關係に於て

6 回、操業關係に於て 4 回、調査關係に於て 1 回の各小委員會が開かれ熱心に研究調査が進められて居りますから其研究の結果が發表せらるゝ曉に於ては我が電氣製鋼界を裨益するところ甚大なるものがあると信じます。

ロ) 自動車用鐵鋼材研究會—之は日本機械學會と聯合した研究會で本會の理事吉川博士を委員長とし昨 14 年 3 月 7 日以降 3 回に互て研究會を開き自動車工場の技術者と之に鋼材を供給する製鋼技術者との間に各種鋼材の得失、代用鋼、缺點の除去、熱處理等の問題について熱心に研究討議が行はれ詳しき速記録が出来て居りますが此研究會は多大の効果を上げて去 3 月 2 日の第 3 回研究會で一旦打ち切りとなりましたが尙ほ引續き研究を續行すべしとの議が起り今後のことは重ねて詮議することになった様であります。私は同委員長として御盡瘁下さいました吉川博士に對し厚く御禮を申し上げます。

ハ) 耐火材料研究座談會—之は大日本窯業協會と聯合した研究會で本會の評議員黒田學士が其委員長となられ主として製鋼爐に使用する各種耐火煉瓦の寸法の不統一を是正するか爲主なる使用者側と製造者側の技術者とが相會し其統一を圖られたものでありまして昭和 14 年 4 月 21 日 11 月 5 日の 2 會合で其仕事が了りまして之が統一を見るに至りましたことは耐火煉瓦の使用及製造兩方面に多大の利便を與へることゝ存じまして黒田學士の勞を感謝致します。

ニ) 鋼鑄物研究會—之は日本鑄物協會と聯合し同協會々長石川博士に委員長を御願ひまして昨 14 年 9 月 5 日及本年 1 月 23 日に準備委員會が開かれまして之から愈々活動に入ることになつて居ります。

ホ) 燃料經濟研究會—之は 1 昨 13 年 10 月海野博士に委員長を御依頼して第 1 回を開催致しましたが昨 1 日に第 3 回目を開きまして再び熔鑄爐の熱勘定に關する事項を一層精細に検討致しました。之は尙引續き研究することになつて居ります。

3. 講演例會—昨年度中に開催致しました東京市に於ける講演會は總計 7 回でありまして、其都度時機に適したる題目を選びて其道の權威者に御講演を願ひました結果聴講者も常に百數十名乃至三百数十名の多きに上つて居りますことは鐵鋼に關する智識の普及に至大の効果あるものと存じます。

4. 講演大會—昨年春東京、秋滿洲に於て催しました講演大會については其都度會誌上に詳報致して置きましたから茲には報告を省略致します。然し滿洲に於ける大會に際し

鮎川滿業總裁、小日山昭和製鋼所理事長以下在滿の有力なる各位が其成功の爲に事務的及財的に多大なる御援助を賜はつたことに對し此席で重ねて謝意を表して置きます。

5. 野田文庫—同文庫は外國圖書の入手困難なるの時に拘らず漸次充實されまして、昨年 12 月現在の圖書目錄は最近皆様の御手許に送りました筈であります去 2 月 20 日調によりますと和書 76 冊、洋書 285 冊、外國雜誌及定期刊行物 26 種でありまして圖書は成る可く近刊のものを集め又世界主要國の専門雜誌を斯く多種類備付けてありますから成るべく多く會員諸君の御利用を願ひたいと存じます。

6. 鐵鋼要覽—要覽の出版遅延については昨年の總會に於て御詫致しましたが今年も亦之を繰返さざるを得ないのは甚だ遺憾の至であります各種の題目の原稿も大多數出揃て居りまして其大部分は既に編輯委員の査閲、整備を了て印刷所に送り校正を了りましたものも多數あるのであります。要覽中には是非採録を必要とする項目の執筆を御依頼しました 3~4 の方が時局柄甚だ御多忙で未だ御執筆中でありましたので其出版が甚だ後れまして申譯がありませぬ然し之れも本年内には其事業を完了し得ることゝ存じますから御諒承を願ひます。

7. 支部—昨年 3 月大阪市に設立されました荒木支部長以下商議員諸君の熱心なる御盡力によりまして同管内會員數も著しく増加し至て健全なる發達をなし來りましたことは洵に欣快の至りであります。昨年度中同支部が催しました講演並見學會の數は 4 回でありまして其都度 2~300 名の來會者のありましたことは此支部設置が如何に有意義のものであつたかを物語るものであると信じます。本協會としては本邦及滿洲の製鐵或は鐵工業中心地に此種支部の續々設立せられることを切望致して居りますから在地方の有力なる會員諸君には此方面にも御盡力あらんことを御願致して置きます。

II 内外製鐵業の狀勢—

先づ本邦の製鐵事業發展の様態については之に關する統計が發表されて居りませぬから茲に之を申上げる材料がありませぬが以下至極概略のことを申し上げたいと思ひます。

先づ鉄鐵については昨年中には 6~7 月の頃中山製鋼所の 500 吨熔鑄爐及小倉製鋼會社の 250 吨爐の吹立があり更に 10 月には日鐵廣畑の 1,000 吨爐 12 月には輪西の 700 吨爐が操業を始め其結果何れも至て良好であるから昨 14 年



中日滿兩國を通ずる銑鐵の生産量は統計の最後に發表された昭和 11 年の 286 萬噸に比して著しき増産を示して居ることは疑のないところであります。

次に鋼材について過去 2~3 年來本邦の平爐及電氣爐等の製鋼設備が増設されて製鋼能力は相當増加致して居るのであるがこの 1~2 年來爲替管理其他の關係から屑鐵の輸入が激減するに至た爲銑鐵一貫作業でなくて屑鐵製鋼法を行ふ製鋼所の生産が著しく減少するに至た結果日滿を通ずる昭和 11 年の鋼材製産 473 萬噸に比し其増加率が餘り高くなく従て其需給の關係に一大支障を來して居ることは遺憾の至であるが之又止むを得ない次第であります。

然しながら今春は日本製鐵に屬する廣畑の第 2 1,000 噸熔鑪爐、冬には輪西の 700 噸爐等が完成し又本秋までには本溪湖の第 1 600 噸熔鑪爐も吹立を行ひ昭和製鋼所にある多數の 700 噸熔鑪爐も亦全能力を發揮し得るに至るであらうから銑鐵の生産も急速に増加すべく、又之等に伴ふ各所の製鋼設備も追々完成し其他昨年中に十數萬噸の鋼材を市場に出した日本鋼管のトーマス法も本年は一層其生産を増すに至るであらうから鐵鋼の不足も本年を峠として今後大に緩和さるゝものではないかと考へられて居ります。

其他砂鐵利用の工業化、クルップ・レン法採用等の模様等については昨日工學大會に於て概略申述べましたから茲には省略致します。

次に世界の昨年中に於ける製鐵業の消長について申述べるとはありますが昨年 8 月歐洲戰爭の勃發以來米國を除くの外歐洲主要製鐵國の生産量が發表されて居りませぬから其詳細を述べる事が出来ませぬ。唯 1939 年米國の銑鐵

生産量は 2,821 萬噸で 1938 年の 1,947 萬噸に比して 874 萬噸 (45% 弱) を増加し殊に昨年 9 月以降の増加が顯著であります。又同じく鋼塊 (鋼鑄物を含む) の生産額は 4,126 萬噸で 1 昨年の 2,880 萬噸に比して 1,246 萬噸 (43% 強) を増加し銑鐵同様昨年 9 月以降の増加率が急激であります。之れは勿論歐洲戰爭及同國軍備擴張の爲の影響であると考へられます。

III 結 語

以上申述べました通り本協會の會員數は昨年度中に 696 人を増加し之に 1 昨年度中の増加數 616 を加へますと過去 2 年間に 1312 人の増加で 12 年度末の會員數に對して實に 55% 弱の膨脹になつて居ります。之は去 13 年春私共が提唱致しました「會員倍加運動」の目標に及ばざること遠くはありますが先づ相當の成績であつたと自ら慰めて居る次第であります。尙ほ此頃でも會誌で御覽の通り毎月 50~80 名を増加致して居りますから今後 2 ケ年間には 5,000 名を突破することは確實であると信じます。

其他本協會の諸事業も前述の通り各位の御盡力により着々成績を擧げて居りますから御安心を願ひます。尙ほ今後起すべき事業等について諸君に御氣付の點がありましたら理事者の方へ御遠慮なく御申出でを願ひます。

然るに本邦及滿洲の製銑及製鋼能力は最近相當の擴大を致して居るのであります。何分燃料及原料等の關係から充分能率を發揮するを得ずして時局の要望に副ひ得ないことは實に遺憾の至りであります。希くは諸君の撓まざる御努力によりましてこの惱みの一日も早く解消するに至らんことを祈る次第であります。

報 告 事 項

昭和拾四年度會務報告書 (自昭和 14 年 3 月 1 日 至昭和 15 年 2 月 29 日)

1. 集 會

通常總會	臨時總會	理事會	評議員會	編輯委員會	服部博士紀念委員會	博愛會	野田文吉委員會	日委委員會	鋼金(滿洲)大會	講演會
1	1	11	2	11	1	1	1	1	2	6
研 究 部 會										
電 氣 製 鋼						燃料經濟	鑄物協會	鋼物協會	自動車用鐵鋼	耐火材料
準備委員會	幹事會	第一小委員會	第二小委員會	第三小委員會	第四小委員會	鑄物協會聯合會	鋼物協會聯合會	機械學聯合會	窯業協會聯合會	耐火材料協會聯合會
3	2	7	4	4	1	1	2	2	2	2

2. 會 員 異 動

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者		1	2	203	568	774
轉格者				+538	-538	0
退會者		-2		-13	-27	-42
死亡者			-1	-15	-7	-23
昭和15年2月末現在	14	49	21	2,087	1,553	3,724
前年同期對	-	-1	+1	+713	-4	+709

備 考

(イ) 維持會員新加入

壽重工業株式會社大津工場(1口)

(ロ) 贊助會員

株式會社尼ヶ崎製鐵所社長 井上長太夫
日本屑鐵統制會社代表 保倉熊三郎

(ハ) 死亡者

役員

評議員 贊助會員 磯村豊太郎君

正會員

片山謙一郎君 黒部 義雄君 梅田香五郎君 武藤 金彌君
加藤 止孝君 荒木 道君 品川 俊夫君 渡邊 俊雄君
岩瀬 徳藏君 武田 龜藏君 川合 得二君 小島 慎一君
玉田 榮一君 和泉孝太郎君 工藤 誠三君

准會員

五明 富治君 山口 高次君 奥村 清君 玉田 金次君
關谷眞次郎君 小林包二郎君 小田 朝見君
以上 23 氏を喪ひたるは痛措の至りなり。尙以上諸氏の計に
接しては弔詞を呈し哀悼の意を表せり。

3. 會誌發行及印刷物

(イ) 本會々誌「鐵と鋼」自第 25 年第 3 號 至第 26 年第 2 號

(ロ) 講演大會講演大要 春秋 2 回

4. 庶務事項

A 第 24 回通常總會 昭和 14 年 4 月 2 日

- イ, 評議員半数改選
ロ, 昭和 13 年度會務報告
ハ, 昭和 13 年度收支決算報告
ニ, 昭和 14 年度收支豫算報告
ホ, 服部賞牌及服部賞金贈呈式
ヘ, 香村賞牌贈呈式
ト, 俵賞金贈呈式
チ, 渡邊賞牌及渡邊賞金贈呈式

B 臨時總會 昭和 15 年 1 月 26 日

(イ) 定款改正 評議員増員の件

C 理事會

- 1) 入退會者審査承認
2) 毎月會務並會計事項審査
3) 編輯委員 委囑更改
委員解任 五百旗頭 啓 廣 瀬 政 次
委員委囑 俵 信 次 山 口 眞 申
4) 電氣製鋼研究會の設置
5) 電氣製鋼研究會委員長, 委員及幹事委囑更改
昭和 14 年 6 月 28 日四科小委員會を設置し委員 (〇印を附
したるは幹事) の配屬決定せらる。
尙其の後昭和 15 年 2 月末日までの異動を併記すれば次の如
し。

委員長 川崎 舍恒三君 同補佐 林 達 夫君

第一小委員會 委員

石川 等君 今泉 貫治君 堀切 政康君 〇神谷 基夫君
加藤 修君 吉田 正夫君 高田 安雄君 田宮 利彦君
中村 素君 牛尾 眞三君 高良 淳君 寒川恒一郎君

解 囑

吉田 正夫君 中村 素君

委 囑

〇野田 浩君 吉村 英文君

第二小委員會 委員

井上 克巳君 稻津 健介君 林 狷之介君 二階堂行健君
西山彌太郎君 岡 憲 市君 〇武井 武君 向山 幹夫君
梅津 七藏君 日下 和治君 楠 正 允君 〇藤原 唯義君
荒川 直三君 茂木 吉治君

解 囑

二階堂行健君 西山彌太郎君 梅津 七藏君 向山 幹夫君

委 囑

宇留野四平君 落合 勇君 鈴木千代藏君 荻原 三平君
小林 誠一君 廣瀬 政次君 足立 泰雄君

第三小委員會 委員

石川 薫君 〇石原 善雄君 千柄 實男君 大垣 梅雄君
大立 廉君 大崎 隆三君 神邊 武雄君 谷山 巖君
田村 勝人君 笹部 誠君 野崎 榮君 藪内周三郎君
〇松山 寛慈君 福留 富治君 小塚 壽吉君 荒木 彬君

解 囑

谷山 巖君

委 囑

小島 豊榮君

第四小委員會 委員

長谷川熊彦君 林田 恒雄君 銅金 義一君 渡邊 三郎君
和田 隼君 俵 信 次君 〇田子島茂次君 的場 幸雄君
藤井 寛君 網谷 俊平君 澤村 宏君 齋藤 彌平君
〇吉川 晴十君 菊田多利男君 絹川武良司君 鹽澤 正一君
篠原 登君

6) 主事異動

解囑 風間篤次郎(昭和 14 年 12 月 30 日)

委囑 金谷 三 松(昭和 15 年 1 月 1 日)

- 7) 鑄物協會と聯合, 鑄物部會, 鋼鑄物研究會設置準備
8) 大日本窯業協會と聯合, 爐用耐火材料研究座談會開催
9) 關西支部設置(昭和 14 年 3 月 22 日)
10) 定款及同施行細則改正案作製

D 評議員會

- 1) 評議員半数改選に就き推薦候補者選定
2) 監事選舉(第 25 回通常總會終了後就任)
3) 定款改正評議員増員の件
4) 定款改正案審議
5) 昭和 14 年度收支決算に關する件
6) 昭和 15 年度收支豫算に關する件
7) 評議員故磯村豊太郎君補缺選舉 當選者 杉 政 人君
8) 俵賞金受領者選定

學術上優秀論文 志村清次郎君

「鐵の滲炭竝に鋼の脱炭現象の定量的研究」

鐵と鋼 第 25 年 第 10 號

技術上優秀論文 大原久之君

「我國に於ける回轉爐製鉄試験に就て」

鐵と鋼 第 25 年 第 10 號

10 渡邊賞牌受領者選定

受領者 吉川 晴 十君

E 編輯委員會

- 1) 會誌每號掲載原稿審査選定
2) 會誌並其他刊行物の編輯
3) 講演大會研究部會等の開催準備竝に實行

- 4) 鐵鋼要覽編纂中
- 5) 購入圖書の選定

F 服部博士記念資金委員會(昭和 15 年 2 月 21 日)

- 1) 第 10 回服部賞牌並服部賞金受領者選定
- 賞牌受領者
福井 眞君
- 賞金受領者
伊能 泰治君 井上 愛仁君 太田 雞一君 兒玉 藤八君
高橋 三平君 原 行三君 藤田 清一君 堀 半造君
毛利 英熊君
- 2) 昭和 14 年度服部博士記念資金收支決算報告
- 3) 昭和 15 年度服部博士記念資金收支豫算報告

G 野田文庫委員會

- 1) 購入圖書の選定の件
- 2) 圖書目錄の編纂

H 官廳事項

- 1) 日本鐵鋼協會調查表を企畫院科學部部長へ提出
(昭和 15 年 2 月 1 日)
- 2) 定款變更評議員増員件認可申請
(昭和 15 年 2 月 19 日文部省認可)
- 3) 本會資産變更登記(昭和 14 年 4 月 8 日)
- 4) 昭和 14 年度本會事業報告を文部省へ提出
(昭和 14 年 4 月 8 日)

I 事務員異動 (○印を附したるは現任者)

採用年月日	解僱年月日	
11-3-10	14-8-31	石川 正子
12-1-1	昭和 12 年 8 月より應召中	○小島 正司
12-4-19	14-3-18	山下 義雄
13-3-10	14-4-1	赤山 榮
13-9-1	14-9-30	○本田 永視
14-4-24	14-12-29	本橋 昌
14-8-25		○落合 みゑ
14-9-15	14-10-31	幸田 弘
14-10-21	15-2-15	俣野 芳子
14-11-8		○砂門 喜苔
14-11-22		○田邊 正信
14-12-14		○佐藤 伸男
15-1-24		○中村 敏雄

K 日本鐵鋼協會關西支部

- 1) 創立總會 昭和 14 年 3 月 22 日

5. 講演大會

- 第 21 回 講演大會 昭和 14 年 4 月
東京に於て 出席者 125 名 講演數 33
- 第 22 回 講演大會 昭和 14 年 9 月
奉天に於て 出席者 550 名 講演數 27

6. 講演會

回数	年月日	演 題	講 演 者
第 1 回	14-3-24	日本刀鍛錬法に就て 鋼の結晶粒度に就て	日本刀鍛錬會主事海軍大佐 倉田 七郎君 早稻田大學助教授 工學士 前田 六郎君
第 2 回	14-5-26	滿支視察談 鐵鋼生産力擴充の意義	内閣企畫院調査官 工學士 兒玉 晋匡君 日本製鐵株式會社 技術部長 工學士 井村 竹市君
第 3 回	14-6-26	中國地方に於ける砂鐵精煉の現況 支那の鑛物資源に就て	工學士 文學士 岩崎 航介君 商工省地質調査所長 理學博士 山根 新次君
第 4 回	14-10-30	獨逸國レン式製鐵法の現況に就て (幻燈あり) 滿洲産業視察談	獨逸國技師 ヨハンゼン博士君 通譯「クルツプ」代表會社々員 鈴木 泰次郎君 東京帝國大學教授 工學博士 三島 徳七君
第 5 回	14-11-30	歐米に於ける最近の航空材料に就て 歐米視察所感	東京帝國大學航空研究所 工學博士 石田 四郎君 々員 中央工業會社取締役會長 工學士 今井 文平君
第 6 回	15-1-26	茂山鐵山の磁力探鑛に就て 我國に於ける「トーマス」製鋼法の開始に就て	京都帝國大學教授 工學博士 藤田 義象君 日本鋼管株式會社取締役 工學博士 今泉 嘉一郎君 日本鐵鋼協會前會長

7. 研究調査事項

研究部會回次	部 門 別	題 名	開 催 時 日	開催地名
第 18 回 研究部會	第 10 回 製鋼部會	第 1 回 電氣製鋼研究會	昭和 14 年 4 月 1 日	東京
第 18 回 研究部會	第 2 回 燃料經濟部會	第 4 回 平爐熱動態研究會	昭和 14 年 4 月 1 日	東京
第 19 回 研究部會	第 11 回 製鋼部會	第 2 回 電氣製鋼研究會	昭和 14 年 6 月 28 日	東京
機械學會, 鐵鋼協會聯合部會	—	第 1 回 自動車用鐵鋼材研究會	昭和 14 年 3 月 2 日	東京
同上	—	第 2 回 同 上	昭和 14 年 5 月 4 日	東京
鑛物協會, 鐵鋼協會聯合部會	鑛物研究部會	鋼鑄物研究會	準備中	
日本窯業協會	—	第 1 回 製鐵鋼用耐火物座談會	昭和 14 年 6 月 17 日	東京
鐵鋼協會聯合座談會	—	第 2 回 同 上	昭和 14 年 11 月 5 日	東京

昭和十四年度會計報告書

貸借對照表

第(1)號

(昭和十五年二月末日)

勘定科目 (資産)	内譯	合計	勘定科目 (負債)	内譯	合計
(什器)		2,168'56	(未收會費見返)		905'05
(電話)		800'00			
(圖書)		1,259'82	小計		905'05
(敷金)		855'00	(資 金)		669,803'46
(保證金代用有價證券)		1,044'84	前年度より繰越高	642,514'69	
會誌發行保證金	907'00		本年度増加額	27,288'77	
約束郵便保證金	137'84		別口資金 ¥19,008'01		
(分讓印刷物)		250'00	事業資金 ¥ 8,280'76		
計 ¥ 6,373'22			昭和14年度2月末日		
(有價證券)		14,819'50	資 金 内 譯		
(信託預金)		53,198'08	服部博士記念資金	20,807'96	
(銀行預金)		7,780'80	香村博士寄贈資金	25,686'43	
定期預金	2,565'18		俵博士記念資金	5,178'31	
特別當座預金	5,224'62		河村博士寄贈資金	5,974'82	
(振替貯金(口座基金を含む))		18,773'64	鐵鋼資料編纂資金	18,523'56	
(現金)		359'15	野田文庫資金	128,272'71	
以上五口流動資産			日本鋼管會社寄贈資金	312,003'92	
計 ¥ 94,981'17			日本特殊鋼會社寄贈資金	52,051'36	
(別口野田文庫資産什器)		3,221'50	別口資金計	568,499'07	
(別口野田文庫資産圖書)		7,754'82	事業資金	101,304'39	
(別口資金見返有價證券)		243,070'00		669,803'46	
服部博士記念資金	20,000'00				
香村博士寄贈資金	20,000'00				
俵博士記念資金	5,000'00				
日本鋼管會社寄贈資金	198,070'00				
(別口資金見返信託預金)		255,974'82			
河村博士寄贈資金	5,974'82				
野田文庫資金	100,000'00				
日本鋼管會社寄贈資金	100,000'00				
日本特殊鋼會社 "	50,000'00				
(別口資金見返銀行預金)		57,891'60			
服部博士記念資金	807'96				
香村博士寄贈資金	5,686'43				
俵博士記念資金	178'31				
鐵鋼資料編纂資金	18,523'56				
野田文庫資金	16,710'06				
日本鋼管會社寄贈資金	13,933'92				
日本特殊鋼會社 "	2,051'36				
(別口野田文庫見返振替貯金(口座基金を含む))		586'33			
以上六口別口資金見返資産					
計 ¥ 568,499'07					
(未收會費)		905'05			
		670,708'51			670,708'51

昭和十四年度收支決算

第(2)號

(自昭和十四年三月一日 至昭和十五年二月末日)

支 出	内 譯	合 計	收 入	内 譯	合 計
(會 誌 印 刷 費)		27,824.87	(維 持 會 員 會 費)		14,400.00
(版 類 製 作 費)		1,886.02	(贊 助 會 員 會 費)		600.00
(別 刷 印 刷 費)		2,064.47	(正 會 員 會 費)		17,236.35
(原 稿 料)		1,455.19	(准 會 員 會 費)		12,792.61
(約 束 郵 便 料)		1,375.71	(入 會 金)		924.00
(俸 給 及 手 當)		10,844.80	(印 刷 物 分 讓 料)		3,967.57
(借 室 料)		3,420.00	(廣 告 料)		17,363.40
(會 合 費)		425.10	(公 社 債 利 子)		710.48
(臨 時 總 會 費)		207.57	(振 替 貯 金 利 子)		293.45
(日 本 工 學 會 費)		200.00	(銀 行 預 金 利 子)		160.79
(講 演 會 費)		1,373.20	(信 託 預 金 收 益)		1,965.17
(事 務 費)		6,019.76	(鐵 鋼 試 料 分 讓 料)		8,739.13
(關 西 支 部 費)		550.00	(雜 收 入)		88.39
(圖 書 費)		165.77	(大 會 收 入)		3,093.30
(什 器 費)		246.50			
(大 會 費)		5,761.24			
(鐵 鋼 試 料 買 入 代 金)		7,085.20			
(鐵 鋼 要 覽 編 纂 費)		4,000.00			
(豫 備 費)		38.80			
小 計		74,444.20			
(差 引 本 年 度 收 入 超 過 金)		7,890.44			
		82,334.64			82,334.64
本年度資金増加額照合表					
收 入 増 加 額					
上 記 の 通 り					
(追加) 支出中資産に還元額					
圖 書 費	(+)	143.82			
什 器 費	(+)	246.50			
差 引 増 額	(+)	390.32			
合 計 本 年 度 資 金 増 額					
3,280.76					

別口資金收支決算表

第(3)號

(自昭和十四年三月一日 至昭和十五年二月末日)

口 別	支 出	金 額	收 入	金 額	備 考
(1) 鐵編鋼纂 資金	(雜 刷 給) (費) (金)	324.30	(經常費より受入高)	4,000.00	
	(印 刷 費) (金)	86.56	(銀行預金利息)	309.08	
	(雜 費) (金)	18.64	小 計	4,309.08	
	小 計	429.50	前年度より繰越金	14,643.98	
	差引次年度へ繰越高	18,523.56		18,953.06	
		18,953.06			
(2) 服部博士 記念資金	(賞 牌 製 作 費) (金)	600.00	(公 債 利 子)	1,000.00	
	(賞 牌 副 賞 金)	35.47	(銀行預金利息)	12.81	
	(賞 牌 副 賞 金)	300.00	小 計	1,012.81	
	(受 賞 者 招 待 費)	21.00	前年度より繰越金	814.87	
	(賞 狀 用 紙 及 揮 毫 料)	7.60			
	(信 託 手 數 費)	10.00			
	(雜 費) (金)	46.25			
	小 計	1,019.72			
	差引次年度へ繰越高	807.96			
		1,827.68		1,827.68	
(3) 香村博士 寄贈資金	(賞 牌 製 作 費) (金)	35.41	(公 債 利 子)	1,000.00	
	(賞 牌 副 賞 金)	300.00	(銀行預金利息)	96.79	
	(賞 牌 副 賞 金)	300.00	小 計	1,096.79	
	(受 賞 者 招 待 費)	3.00	前年度より繰越金	4,935.93	
	(賞 狀 用 紙 及 揮 毫 料)	1.00			
	(證 券 保 護 預 手 數 料)	3.27			
	(雜 費) (金)	3.61			
	小 計	346.29			
	差引次年度へ繰越高	5,686.43			
		6,032.72		6,032.72	
(4) 依記念 博士資金	(賞 狀 用 紙 及 揮 毫 料)	200.00	(債 券 利 子)	215.00	
	(受 賞 者 招 待 費)	2.00	(銀行預金利息)	1.86	
	(受 賞 者 招 待 費)	6.00	小 計	216.86	
	(雜 費) (金)	70	前年度より繰越金	170.15	
	小 計	208.70			
	差引次年度へ繰越高	178.31			
		387.01		387.01	
(5) 河寄贈 博士資金	次年度へ繰越高	974.82	(信 託 收 益)	220.71	
			前年度より繰越金	754.11	
		974.82		974.82	
(6) 野田文庫 資金	(圖 書 費) (金)	2,117.33	(信 託 收 益)	3,800.00	支出中財産に還元額 ¥ 2,293.33 内 譯 圖 書 ¥ 2,117.33 什 器 ¥ 176.00
	(什 器 費) (金)	176.00	(定期預金利息)	420.54	
	(印 刷 費) (金)	316.34	(銀行預金利息)	49.85	
	(雜 費) (金)	110.74	(振 替 貯 金 利 子)	29.86	
	小 計	2,720.41	小 計	4,300.25	
	差引次年度へ繰越高	17,296.39	前年度より繰越金	15,716.55	
		20,016.80		20,016.80	
(7) 日社寄贈 鋼管會金	(研 究 部 會 費) (金)	1,309.08	(公 債 利 子)	3,500.00	
	(印 刷 費) (金)	963.38	(社 債 利 子)	4,200.00	
	(通 信 費) (金)	17.92	(信 託 收 益)	3,800.00	
	(速 記 料) (金)	249.90	(銀行預金利息)	139.75	
	(雜 費) (金)	75.60	小 計	11,639.75	
	小 計	2,615.88	前年度より繰越金	4,910.05	
	差引次年度へ繰越高	13,933.92			
		16,549.80		16,549.80	
(8) 日會社寄贈 特殊鋼金	(賞 牌 製 作 費) (金)	100.52	(信 託 收 益)	1,900.00	
	(賞 牌 副 賞 金)	300.00	(銀行預金利息)	18.68	
	(賞 牌 副 賞 金)	100.00	小 計	1,918.68	
	(賞 牌 原 形 彫 像 費)	150.00	前年度より繰越金	792.43	
	(受 賞 者 招 待 費)	6.00			
	(賞 狀 用 紙 及 揮 毫 料)	2.00			
	(雜 費) (金)	1.23			
	小 計	659.75			
	差引次年度へ繰越高	2,051.36			
		2,711.11		2,711.11	

財 産 目 録

第(4)號

(昭和十五年二月末日現在)

摘 要	昭和十四年 二月末日現在	昭和十五年 二月末日現在	差 引 増 (+) 減 (-)	備 考
資 産 の 部				
(什 器)	1,917'06	2,163'56	(+) 246'50	
(電 話)	800'00	800'00		
(圖 書)	1,116'00	1,259'82	(+) 143'82	
(敷 金)	855'00	855'00		
(保 證 金 代 用 有 價 證 券)	1,044'84	1,044'84		
甲號五分利壹千圓會社發行保證金	907'00	907'00		
公債額面				
み號 " 壹百五十圓約東郵便 "	137'84	137'84		
(分 讓 印 刷 物)	250'00	250'00		
(有 價 證 券)	14,819'50	14,819'50		
東京電燈社債 額面 壹千圓	1,000'00	1,000'00		
東洋拓殖債券 " 壹萬參千圓	12,870'00	12,870'00		
帝國五分利公債 " 壹千圓	949'50	949'50		
(信 託 預 金)	51,232'91	53,198'08	(+) 1,965'17	
三 菱 信 託 株 式 會 社	28,481'08	29,573'52	(+) 1,092'44	
三 井 信 託 株 式 會 社	22,751'83	23,624'56	(+) 872'73	
(銀 行 預 金)	7,676'89	7,780'80	(+) 103'91	
住友銀行東京支店定期預金	2,473'68	2,556'18	(+) 82'50	
三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金	5,203'21	5,224'62	(+) 21'41	
(振 替 貯 金 (口座基金を含む))	13,009'58	18,773'64	(+) 5,764'06	
(現 金)	301'85	359'15	(+) 57'30	
(未 收 會 費)	887'00	905'05	(+) 18'05	
小 計	93,910'63	102,209'44	(+) 8,298'81	
(別口見返資金) (別口財産目録通)	549,491'06	568,499'07	(+) 19,008'01	
合 計	643,401'69	670,708'51	(+) 27,306'82	
負 債 の 部				
未 收 會 費	887'00	905'05	(+) 18'05	
合 計	887'00	905'05	(+) 18'05	
差 引 財 産 現 在 高	642,514'69	669,803'46	(+) 27,288'77	

別 口 財 産 目 録

第(5)號

(昭和十五年二月末日現在)

摘 要	昭和十四年 二月末日現在	昭和十五年 二月末日現在	差 引 增 (+) 減 (-)	備 考
1. 鐵鋼資料編算資金 三菱銀行特別當座預金	14,643'98 14,643'98	18,523'56 18,523'56	(+) 8,879'58 (+) 3,879'58	
2. 服部博士記念資金 帝國五分利公債額面二萬圓 三菱銀行特別當座預金 現 金	20,814'87 20,000'00 794'72 20'15	20,807'96 20,000'00 807'96 0	(-) 6'91 0 (+) 13'24 (-) 20'15	
3. 香村博士寄贈資金 帝國五分利公債額面二萬圓 三菱銀行特別當座預金 現 金	24,935'93 20,000'00 4,892'91 43'02	25,686'43 20,000'00 5,686'43 0	(+) 750'50 0 (+) 793'52 (-) 43'02	
4. 俵博士記念資金 東洋拓殖債券額面五千圓 三菱銀行特別當座預金 現 金	5,170'15 5,000'00 167'16 2'99	5,178'31 5,000'00 178'31 0	(+) 8'16 0 (+) 11'15 (-) 2'99	
5. 河村博士寄贈資金 三菱信託株式會社信託金	5,754'11 5,754'11	5,974'82 5,974'82	(+) 220'71 (+) 220'71	
6. 野田文庫資金 三菱信託株式會社信託金 三 井 " " 住 友 " " 三 菱 銀 行 定期預金 三井銀行丸ノ内第二支店 " 住友銀行東京支店 " 三 菱 銀 行 特別當座預金 三井銀行丸ノ内第二支店 " 住友銀行東京支店 " 振替貯金(口座基金を含む) 圖 書 什 器	124,399'54 35,000'00 35,000'00 30,000'00 4,202'37 4,202'37 4,202'37 879'59 983'53 689'85 556'47 5,637'49 3,045'50	128,272'71 35,000'00 35,000'00 30,000'00 4,342'55 4,342'55 4,342'55 567'71 1,267'57 1,847'13 586'33 7,754'82 3,221'50	(+) 3,873'17 0 0 0 (+) 140'18 (+) 140'18 (+) 140'18 (-) 311'88 (+) 284'04 (+) 1,157'28 (+) 29'86 (+) 2,117'33 (+) 176'00	
7. 日本鋼管會社寄贈資金 三井信託株式會社信託金 三分半わ號公債額面金十萬圓 政府保證興業債券十萬圓 三菱銀行特別當座預金 三 井 " " 住 友 " "	302,980'05 100,000'00 98,050'00 100,020'00 1,035'42 1,764'63 2,110'00	312,003'92 100,000'00 98,050'00 100,020'00 3,633'29 3,937'04 6,363'59	(+) 9,023'87 0 0 0 (+) 2,597'87 (+) 2,172'41 (+) 4,253'59	
8. 日本特殊鋼會社寄贈資金 住友信託株式會社信託金(甲) 同(乙) 住友銀行特別當座預金(丙) 東京支店 同(丁)	50,792'43 20,000'00 30,000'00 314'57 477'86	52,051'36 20,000'00 30,000'00 420'19 1,631'17	(+) 1,258'93 0 0 (+) 105'62 (+) 1,153'31	
合 計	549,491'06	568,499'07	(+) 19,008'01	

昭和十五年度經常收支豫算

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
持 會 員 會 費	14,500'00	會 誌 印 刷 費	30,000'00
正 會 員 會 費	16,500'00	版 類 製 作 費	1,400'00
准 會 員 會 費	14,640'00	別 刷 印 刷 費	2,000'00
入 會 會 金	400'00	原 稿 印 刷 料	1,500'00
印 刷 物 分 讓 料	3,500'00	約 束 郵 便 料	1,500'00
廣 告 料	15,000'00	俸 給 及 手 當	12,000'00
公 社 債 利 子	735'00	借 室 料	3,420'00
振 替 貯 金 利 子	300'00	會 合 費	550'00
銀 行 預 金 利 子	160'00	工 會 費	200'00
信 託 預 金 利 子	2,000'00	關 西 支 部 費	700'00
鐵 鋼 試 料 分 讓 料	11,000'00	事 務 費	6,500'00
雜 收	50'00	圖 書 費	300'00
		什 器	150'00
		講 演 會 費	2,000'00
		大 會 費	3,000'00
		鐵 鋼 試 料 買 入 代 金	8,800'00
		事 務 員 退 職 給 與 基 金	2,000'00
		豫 備 費	2,765'00
合 計	78,785'00	合 計	78,785'00

昭和十五年度別口資金收支豫算

口 別	收 入		支 出	
	項 目	金 額	項 目	金 額
(1) (鐵鋼資料編纂資金)	前 年 度 よ り 繰 越	18,523'56	鐵 鋼 要 覽 原 稿 料 費	6,250'00
	銀 行 預 金 利 子	300'00	印 刷 製 本 工 費	10,025'00
	鐵 鋼 要 覽 賣 却 收 入	8,000'00	給 筆 耕 圖 費	2,000'00
	計	26,823'56	次 年 度 へ 繰 越	5,000'00
			3,548'56	
(2) (服部博士記念資金)	前 年 度 よ り 繰 越	807'96	賞 牌 製 作 贈 呈 費	40'00
	基 本 公 債 利 子	1,000'00	賞 牌 副 贈 賞 費	300'00
	銀 行 預 金 利 子	11'00	賞 金 者 招 待 費	900'00
	計	1,818'96	賞 狀 用 紙 及 保 毫 料	35'00
			信 託 手 數 料	30'00
			雜 次 年 度 へ 繰 越	10'00
				50'00
				453'96
(3) (香村博士寄贈資金)	前 年 度 よ り 繰 越 高	5,686'43	賞 牌 製 作 贈 呈 費	40'00
	基 本 公 債 利 子	1,000'00	賞 牌 副 贈 賞 毫 料	300'00
	銀 行 預 金 利 子	115'00	賞 狀 用 紙 並 招 待 費	3'50
	計	6,801'43	賞 者 招 待 費	3'50
			雜 次 年 度 へ 繰 越	7'00
				6,447'43
(4) (俵博士記念資金)	前 年 度 よ り 繰 越 高	178'31	賞 金 贈 呈 費	200'00
	基 本 債 券 利 子	215'00	賞 狀 用 紙 並 招 待 費	7'00
	銀 行 預 金 利 子	1'50	賞 者 招 待 費	7'00
	計	394'81	雜 次 年 度 へ 繰 越	10'00
				170'81
				394'81

(5) (河村博士寄贈資金)	前年度より繰越高 基本信託金收益	974.82 230.00	次年度へ繰越	1,204.82
	計	1,204.82		
(6) (野田文庫資金)	前年度より繰越高 基本信託金收益 振替貯金利子	17,296.39 3,800.00 480.00 30.00	圖書室設備費 圖書目録印刷費 圖書目録印刷費 圖書目録印刷費	1,700.00 5,000.00 300.00 1,150.45
	計	21,606.39	計	21,606.39
(7) (日本鋼管會社寄贈資金)	前年度より繰越高 基本信託金收益 基本信託金收益 銀行利息	13,933.92 3,800.00 3,500.00 4,200.00 150.00	研究部會費 印刷信費 通雜費 通雜費	3,500.00 2,500.00 500.00 1,000.00 18,083.92
	計	25,583.92	計	25,583.92
(8) (日本特殊鋼會社寄贈資金)	基本信託收益金 基本信託金收益 銀行利息	2,051.36 1,900.00 20.00	賞牌製作贈呈費 賞牌副贈呈費 賞金贈呈費 賞狀用紙及揮毫料 賞狀用紙及揮毫料 賞狀用紙及揮毫料	40.00 300.00 100.00 7.00 7.00 14.00 3,503.36
	計	3,971.36	計	3,971.26

以上報告候也

昭和 15 年 4 月 3 日

日本鐵鋼協會々長理事

工學博士 齋藤大吉

8. 表彰 (昭和 14 年 4 月 2 日第 24 回通常總會に於て贈呈)

A 第 9 回服部賞牌及賞金贈呈

賞牌受領者

日本製鐵株式會社釜石製鐵所 技師 工學士 藤村 哲之君

賞金受領者

- 日本鋼管株式會社製鋼一班平爐職長 石原福太郎君
- 株式會社日本製鋼所室蘭製作所技師 工學士 萩原 巖君
- 東京製鋼株式會社 技手 川野 貴一君
- 日本鋼管株式會社技術研究部 技手 高島德三郎君
- 株式會社日本製鋼所室蘭製作所 長井 盛君
- 日本製鐵株式會社八幡製鐵所 技師 森寺 一雄君

B 第 7 回香村賞牌贈呈

日本製鐵株式會社八幡製鐵所研究所

技師 理學博士 海野 三期君

C 第 5 回依賞金贈呈

學術上優秀論文 大阪帝國大學助教授

工學博士 多賀谷正義君

技術上優秀論文 日本製鐵株式會社八幡製鐵所 內川 悟君

D 第 1 回渡邊賞牌及賞金贈呈

賞牌受領者

北東帝國大學金屬材料研究所長 理學博士 村上武次郎君

賞金受領者

日本特殊鋼株式會社 技師 工學士 佐々木吉備三郎君

9. 圖書

寄贈圖書受付總數 457 部

野田文庫購入圖書 76 冊

以上

評議員會推薦候補者 (全員當選)

會長理事 渡邊 三郎君

理事 吉川 晴十君 井村 竹市君 田中 清治君

鹽澤 正一君

評議員(イロハ順)

- 石原 善雄君 ○石原米太郎君 石原廣一郎君 井上 克巳君
- 井上禮之助君 ○池田 正二君 長谷川熊彦君 ○橋本 芳雄君
- 西山彌太郎君 ○德永 晋作君 大崎 新吉君 大村 正篤君
- 小倉 正恒君 門野重九郎君 川上 義弘君 川崎舍恒三君
- 横田 文吉君 吉岡 保貞君 ○高橋 正雄君 田宮嘉右衛門君
- 中井 颯作君 ○中田 義算君 ○中村 道方君 ○中山 悦治君
- 中松 眞卿君 村上武次郎君 ○打越 光保君 梅根常三郎君
- 久保田省三君 ○久保田權四郎君 工藤 治人君 黒田 泰造君
- 栗本勇之助君 ○山崎 章君 松田 義一君 松本與三郎君
- 牧 田 環君 ○小日山直登君 伍堂 卓雄君 荒木 宏君
- 足立 泰雄君 ○淺田 長平君 ○齋藤 三三君 寒川 恒貞君
- 北村保太郎君 ○三島 徳七君 澁澤 正雄君 斯波孝四郎君
- 尾藤加勢士君 ○日高 鏡一君

計 50 名 (○印は新任者)

備考 任期未了者

- 石川登喜治君 井上匡四郎君 井上 順三君 井上長太夫君
- 西村小次郎君 二階堂行健君 本多光太郎君 戸村 理順君
- 大河内正敏君 渡邊 義介君 桂 弁 三君 景山 齊君
- 金子 恭輔君 吉田 豊彦君 室井嘉治馬君 鶴瀨 新五君
- 山根 新次君 松田貞治郎君 松本健次郎君 的場 幸雄君
- 藤井 寛君 藤田 俊三君 鮎川 義介君 澤村 宏君
- 白石元治郎君 島岡亮太郎君 島 安次郎君 末兼 要君
- 杉 政人君 計 29 名 合計 79 名

任期滿了役員 (會長, 理事, 評議員)

改選並に新增員選舉